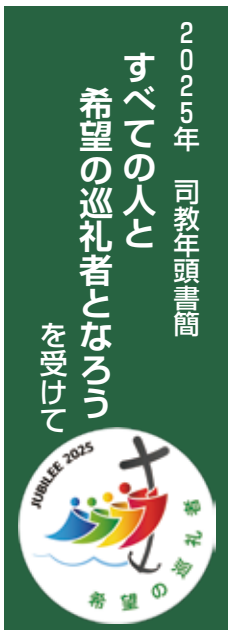


京都教区時報

カトリック京都司教区
 広報委員会
 京都市中京区
 河原町通三条上る
 TEL 075-211-3025
 FAX 075-211-3041
 honbu@kyoto.catholic.jp

<https://www.kyoto-catholic.net/>



第1回 この世を超える希望 自分を超える希望

昨秋、京都国立博物館で「法然上人と極楽浄土」という特別展が開催されました。法然が生きた平安時代末期は、繰り返される内乱や災害、疫病によって世の中が乱れ、人々は疲弊し苦悩を深めていたといえます。そのような中で、法然は「南無阿弥陀仏」を称えることによって誰もが等しく極楽浄土に往生できるという「この世を超える希望」を説き、貴族から庶民に至るまで多くの人に受け入れられ、その教えは現代にまで連続と受け継がれてきています。

展覧会の目玉のひとつ、国宝「阿弥陀二十五菩薩来迎図」（知恩院蔵）は、菩薩を従えた阿弥陀様があたかも天から急降下してくるかのような迫力とスピード感のある構図で、「早来迎」というニックネームまでついているそうです。臨終に際して仏様に見えろという人々の希望が切実に伝わってきて心を打たれました。

だからといって、この作品も含めた多くの出展物が伝えてくれていたのは、決して、この世の救われたい、というような単純な厭世思想などで

はありません。むしろ「この世を超える希望」を信じてくる視界です。「すべての人の救い」という希望がすべての人に共有されていた時代の空気です。

それはきっとパウロが



語っている「この世の生活でキリストに望みをかけているだけだとすれば、わたしたちはすべての人の中で最も惨めな者です」（1コリント15・19）という言葉とも響き合うはずのものです。パウロが「希望はわたしたちを欺くことはありません」（ローマ5・5）と語るとき、その希望が「この世を超える希望」であることは明らかですが、さらに今回の「法然と極楽浄土」展によって感じさせられたのは、「この世を超える希望」というのは必ず「自分を超える希望」なのだという点でした。法然に決定的な影響を与えた唐の善導大師の『往生礼赞』にはリフレインのように「願わくば、諸々の衆生と共に、安楽国に往生せん」という言葉が繰り返されています。「阿弥陀様に救われて、さあ、みんなで安楽国（極楽浄土）に行きましょう！」という善導の希望がこの言葉に躍如しています。本当の希望はこの世を超える希望であり、それは必ず自分を超える希望です。だからこそ私達は、すべての人と、希望の巡礼者になれるのです。洛東ブロック担当司祭 菅原 友明

「いのち・平和・環境の日のつどい」
放射線を浴びたX年後は続く
 2024年11月16日

京都教区正義と平和協議会担当司祭
 奥村 豊

正平協企画の映画会「X年後」

2024年の正平協の活動は例年に比べて密度の濃いものであった。いつもは春秋の学習会、8月の戦争と平和写真展に、「てくてく」の発行でもてんでこまいでいるのだが、今年、映画「放射線を浴びたX年後」の3回のシリーズ上映が加わった。1回目「あの日、日本列島は「死の灰」で覆われていた」、2回目「思いは風化しない」に続く今回の最終上映は「京都教区いのち・平和・環境の日のつどい」として開催された。題して「サイレント・フォールアウト―乳歯が語る大陸汚染―」



「放射線を浴びたX年後」 1と2

日本は1945年8月、広島と長崎の原爆投下ゆえに、戦争における核使用による放射線被曝及び被曝の問題を知っているもの、戦後頻繁に実施された太平洋上における核実験による漁師たちの被曝やその家族の苦悩については、第五福竜丸などわずかな事件についてしか知らされていないか、当時多くの報道があったのにもかかわらず、たいていのことが忘れ去られていたのだろう。そういった社会的な記憶を呼び覚ましてくれるのが「放射線を浴びたX年後」シリーズ1と2であった。

X年後3「サイレント・フォールアウト」そして今回の「サイレント・フォールアウト」は日本に原爆を投下したアメリカに視点が移る。監督の伊東英朗さんはこの作品をアメリカでの上映を前提に製作している。

太平洋上だけではなくアメリカ本土でも核実験が度々行われた。太平洋上の実験結果から、放射線が広範囲に広がっていくことはすでに分かっていた。にもかかわらずアメリカ本土でも実験が繰り返されたのだ。核実験というけれど、それはまぎれもなく核兵器の開発である。それが妨げられるような都合な事実は当局によって隠されるのが常套である。撮影はインタビュを軸に展開していく。

核実験と放射線汚染による健康被害

ソルトレイクシティでのインタビュでは、幼い頃から癌で亡くなっていく家族や友人を見てきた女性が登場する。涙ながらに語る女性の悲しみの理由は、単に故人との別れではなく、死の原因が放射線であることをなかなか認めてもらえない苦悩であった。当然であるが多くの被曝者が現れ、核実験による放射線被曝が原因であることをなんとか証明し、世に訴えたいとの活動が始まる。事実を明らかにしようとする学者やジャーナリストの取組が少しずつ進んでいき、アメリカにおける放射線汚染は明らかにになっていく。

女性の行動が社会を変えた

そんな中でも女性たち、特に母親たちの活動が際立っていた。彼女らのアイデ



アによって、ストックされていた子どもの10万本を超える乳歯の放射線測定（気の遠くなる作業だったと思うが）が実施され、核実験と放射線汚染による健康被害の因果関係が決定的となり、当時のケネディ大統領が実験の中止を宣言するに至ったのだ。国家による核開発という大きな動きを平和や健康を求める動きへとシフトさせたのは女性たちの働きであった。女性の行動が社会を変え、健康と命を守ったのである。

放射線汚染は環境汚染の最たるもの

伊東監督のお話の中で印象的であり、はっとさせられたのは、まず、放射線汚染が環境汚染の最たるものだという点である。長期間にわたり環境に影響し続け、自然や生物にダメージをもたらすものは他にはないだろう。もう一つ、なるほどと思ったことがある。これは太平洋における核実験について、日本では今日まで語られなかったのはマスメディアがしっかりと報道しなかったからではないかという会場からの指摘に対して、監督は「いやいや忘れていただけだ」と言っていた。当時の新聞を紹介してくださったこと。わたしたちは自分に影響が直接及んでいないことについては容易く忘れてしまいがちなのだろう。正直、広島長崎の原爆については歴史的に伝えられたこととして自分事なのだが、その後の核実験

や、まして原爆投下した国であるアメリカの被曝被害についてこれまでまるで関心はなかった。こういったドキュメンタリー映画に触れる機会がなければ一生知ることとはなかったと思う。それにしても、あとどれくらいすれば度重なる核実験の放射線の影響はなくなるのだろうか。まだX年後は終わっていない。ぜひ鑑賞してほしいと思う。

参加者の感想

■衝撃的な内容でした。子どもの頃、雨に濡れると髪の毛が抜けると言われていたことを思い出しました。アメリカの核



実験が世界に放射線を拡散させていたのなら、ソ連や中国の核実験の放射線が偏西風で日本に来ていたのでは：と映画を見ながらおびえていましたが、上映後の伊東監督のトークでダメ押しされて、もう逃げ場がない気分です。

■知らずにいたことを自覚しました。「私たちの責任だ。自分の使命だ」と語られる伊東さんの熱い思いに触れることができよかったです。事実を伝えることの意義の大きさを知り、私も今日学んだことをまわりの人に伝えたいと思いました。

■1か月前に友人が「機会があったらぜひ見てほしい映画がある」と教えてくれたのが「サイレント・フォールアウト」でした。アメリカ人が被ばくしていたこと、日本人も人ごとではないことなど、全く知りませんでした。国民の健康を犠牲にしてまで持つべきものでしょうか。

■日本に原爆が落とされてから、海や大地で100回以上も核実験が行われていたことに衝撃を受けました。その後、今に至るまで放射性物質、セシウムなどがアメリカ全土のみならず地球の広域に循環していることを初めて知りました。自分に何ができるわけでもありませんが、真実を知り、もっと視野を広げなければと思っていました。貴重な映画を三部作で視聴させていただき、大変有意義な学びの時間でした。

わたしたち、 京都キリシタン研究会です

京都キリシタン研究会 古澤 吉次

■京都キリシタン研究会設立の経緯

「キリシタン」という言葉から皆様は何を連想されますでしょうか。「クリスマスチャン」であれば現在はふだんから言葉にしたり、目に触れたり、聞かれることも多いと思いますが、当て字としての「切支丹」、「吉利支丹」となれば、日本の歴史で何かいかめしさを伴う語感があると思います。「キリシタン」は古いポルトガル語 *Cristão* に端を発しているといわれます。まさしく、日本の戦国時代から江戸時代、更には明治の初めごろまで使われていました。

古都京都には過去470年近いカトリック宣教の歴史が横たわっています。

1970年代に信徒有志が日本二十六聖人の研究者であったイエズス会の茨木晃神父（1967年日本に帰化）に指導をお願いし、京都教区の諸活動として活動を始めました。1976年9月に田中健一司教が教区長として着座され、ほどなく「京都には日本二十六聖人などゆかりの歴史（殉教史）が存在していることを思い起し、顕彰し後世に継承してゆくこと」を提案したいとの要望を信徒有志に伝えられました。これを受けて1978

年9月に「(仮称) 京都二十六聖人遺跡遺品発掘保存会」を発足、1980年1月「京都キリシタン研究会」と改称・創立して、キリシタン研究活動が始まりました。その目的は「キリシタン史について研究し、その実績を明らかにするとともに殉教の精神を継ぐ証人として奉仕すること」として、現在に至り、京都キリシタン研究会の活動は46年目を迎えています。

■活動の現況

○記念ミサ

例年、次の顕彰ミサをお捧げしています。
日本二十六聖人殉教者顕彰(2月11日)
都の聖母奉賛 (5月第2日曜日)
都の南蛮寺跡記念 (8月第4日曜日)
キリシタン研究会物故者追悼 (11月第4日曜日)

○巡礼

■春の巡礼

主の受難(枝の主日)の前日の土曜日
順路は河原町教会から元和殉教記念碑
(正面橋の東詰) まで

■秋の巡礼

10月第1土曜日

元和殉教記念碑に参詣(現地に集合)

■安土セ・ミナリヨ顕彰ミサ

京都教区滋賀ブロック主催、6月

滋賀県近江八幡市安土町

■河内キリシタン祈念祭

大阪高松教区大東教会主催、10月第2

土曜日 大阪府大東市飯盛山の麓「信愛の森」野外ミサ(1563年、宣教師ヴィレラと修道士ロレンソ了斎による73名集団授洗を顕彰)

○定例会および総会の開催

定例会 毎月第4日曜日(原則) 14時

総会 毎年1月第4日曜日14時

○会誌の発行

会誌「証灯」を年1回制作・発行
活動の年間報告、国内外の巡礼参加、海外からのレポート、書籍の紹介など

■研究会のこれからの活動

国内外のキリシタン史に関する事績情報を収集(ネット情報および、AIも参考活用しながら) 研究するとともに、フィールドワークとして現地巡礼などを行い、福音宣教の視点で、後世に継承していきます。

■会員の募集

会員の高齢化に伴って、会員人数の減少が進んでいます。若い人たちへの会員募集呼びかけが欠かせません。興味関心のおありの方は、ぜひ一緒に活動いたしましょう。



元和殉教記念碑参詣 2024年10月5日

京都市内 キリシタン遺跡マップ



上記のマップは、京都司教区ホームページ「キリシタン史・京都市内遺跡マップ」より転載(原本は「道が京都から／日本二十六聖人殉教400年祭 in 京都」)。ホームページで「キリシタン遺跡・京都市内」をご覧になると、番号通りに詳細を確認することができます。
 一部、現在の名称と異なる場合がありますのでご了承ください。



河内キリシタン祈念祭 2024年10月12日

高校生会「秋の集い」報告

2024年9月23日(祝) 福知山教会



昨年の高校生会「秋の集い」は、カトリック福知山教会をお借りして開催しました。当初は夏休み中に夏の集いを実施する予定でしたが、熱中症警戒アラートが頻繁に発令されていたので、急遽予定を変更し9月になりました。

内容はミサと茶話会、福知山城見学です。福知山城はロザリオの一部やメダイなどのキリシタン遺物が出土した場所です。先人たちの信仰を味わいながらの見学でした。また、高校生の集いですが、同年代の社会人の参加もあり、さまざまな視点で分かち合いができました。福知山教会の皆さま、本当にありがとうございました。

高校生会担当司祭 小立花 忠

青年のための黙想会「終末論」

2024年11月16日(土)～17日(日) 望洋庵

「王であるキリスト」の祭日を翌週に控えた日程で、「終わり」について黙想しました。奥村豊神父の指導で、4名の青年が参加し、紅葉が始まった望洋庵で、静かに、ゆったりとした時を過ごしました。

講話を聞き、聖書を読みながら、「始まり」があって「終わり」がある”つまり、「始まり」と「終わり」はセット”であるということから入り、「終わり」とは「完成するとき」であることを黙想しました。分かち合いでは、参加者がそれぞれ、これまで生きてきた中で体験や、現在の自分についてなどを話し、お互いが深められ、豊かになる体験をしました。

秋も終わりに近づいた2日間、あわただしい日常から離れ、待降節の良い準備にもなった恵みのひとときでした。

信仰教育委員会



教会学校研修会 “今、教会学校に望むこと” ～司教と現場司祭の対話～

2024年11月30日(土) 河原町カトリック会館大ホール

8月31日に実施する予定の研修会が、台風10号の影響でこの日に延期して行われました。新しい河原町カトリック会館の大ホールに8ブロック15小教区から、31名の教会学校リーダーが集まりました。

「子どもとその親が教会に来ない」という課題は、以前からありましたが、少子高齢化、コロナ禍、その他様々な理由で、さらに深刻化している課題です。今回の研修会では、大塚司教と一緒にこのことについて考え、担当司祭の小立花神父からの提案を聞き、教会学校リーダーには具体的に何ができるかについて学び、分かち合いました。「どうすれば子どもの親世代を信仰に引き戻せるか？」などについて考え、午後からグループに分かれて分かち合いを行いました。



小教区を越えて、同じ課題に取り組み、悩みを分かち合い、具体的な実践に向けて歩み出す力をいただいた研修会でした。

信仰教育委員会

カトリック京都司教区 唐崎メリノールセンター 唐崎祈りの家のご案内



祈りの家から望む琵琶湖の朝日

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-4-1

交通：JR湖西線唐崎駅下車徒歩15分

日常からしばし離れ、美しい琵琶湖を眺めながら
静かなひとときを過ごされませんか。
詳細は京都教区のホームページをご覧ください。
施設の写真もご覧になれます。
お申し込みをお待ちしております。



2025年祈りの家企画 黙想会予定

No.	タイトル	日程	講師・ヘルパー	備考
①	8日間の黙想 9泊10日	6月4日(水)17時～ 13日(金)朝食まで	講師：中川博道 (カルメル修道会司祭)	
②	8日間の霊操 9泊10日	6月22日(日)17時～ 7月1日(火)朝食まで	講師：住田省悟 (イエズス会司祭)	
③	ヴィパッサナ瞑想の 黙想 3泊4日	7月18日(金)17時～ 21日(月)16時まで	講師：柳田敏洋 (イエズス会司祭)	
④	〃	10月10日(金)17時～ 13日(月)16時まで		
⑤	日々の生活の中で祈る 黙想会 2泊3日	3月28日(金)17時～ 30日(日)昼食まで		
⑥	〃	4月1日(火)17時～ 3日(木)昼食まで	講師：伊従信子 (ノートルダム・ド・ヴィ会員)	
⑦	〃	11月14日(金)17時～ 16日(日)昼食まで		
⑧	聖書で祈る個人指導の 5日間の黙想 4泊5日	5月28日(水)14時～ 6月1日(日)昼食まで	ヘルパー： 長谷川和子 (聖心会会員)	部分参加可 全日程の方 優先
⑨	聖書で祈る個人指導の 8日間の黙想 9泊10日	11月23日(日)17時～ 12月2日(火)朝食まで	山本久美子 (聖ヨゼフ修道会会員)	

※日程変更の可能性がありますので、京都教区ホームページで最新情報をご確認ください。

◆申込・問合せ

No. ①～⑦ E-mail: karasaki_maryknollhouse@kyoto.catholic.jp
TEL: 075-211-3025 京都司教区本部事務局代表(黙想会担当: 平日9～17時)

No. ⑧・⑨ E-mail: sr.yamamoto@kyoto.catholic.jp
TEL: 075-223-3336 福音宣教企画室 Sr.山本(火・木・金10～16時)

◆各種黙想会、研修会にもご利用ください

個人の黙想、グループで企画された黙想会・研修会を受け付けています。定員15名。
下記まで日程をお問い合わせください。

E-mail: karasaki_maryknollhouse@kyoto.catholic.jp
TEL: 075-211-3025 京都司教区本部事務局代表(黙想会担当: 平日9～17時)

教区行事のひとコマ



京都教区物故者祈念ミサ

2024年11月3日㊦ 河原町教会



死者の月。
大塚司教の司式で、教区内のすべての物故者のために祈りが捧げられました。2024年から司教座聖堂で行われるようになりました。



京都教区物故司祭追悼ミサ

2024年11月20日㊦ 河原町教会小聖堂



帰天された教区司祭の追悼ミサが行われました。
昨年帰天された村上透磨神父は1年祭、2019年に帰天された東門陽二郎神父は5年祭、1999年に帰天された岡淑人神父は25年祭でした。このミサは毎年11月に行われ、それぞれの司祭を5年ごとに追悼します。



司祭・司牧者集会

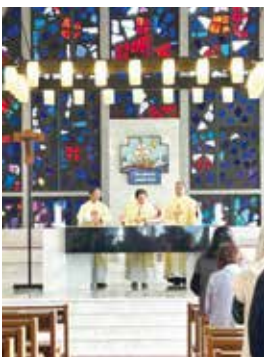
2024年11月27日㊦ 唐崎メリノールハウス



年に4回行われる「司祭・司牧者集会」。今年の最後は唐崎メリノールハウスにて開催されました。いつもはそれぞれのブロックに分かれて司牧にあたっている司祭やシスターが一堂に会し、学び、分かち合い、有意義な時間を過ごしました。オンラインが続いたので、対面で行う集会の良さを感じるひとときとなりました。

司教座聖堂献堂記念日ミサ

2024年12月3日㊦ 河原町教会



司教座聖堂献堂記念日ミサが、京都教区の司教座聖堂である河原町教会において行われました。河原町教会は、聖フランシスコ・ザビエルに捧げられた聖堂で、ザビエルの祝日が献堂記念日と定められています。ミサには聴覚障がい者の会のメンバーが参加されていたので、柳本神父による手話通訳が行われました。



第25回 京都司教区 宣教司牧評議会 2024年12月7日(土) オンラインミーティング

大塚司教をはじめ、ブロック担当司祭の代表や、ブロック代表役員、各委員会の担当者らが出席し、今年の振り返りや次年度に向けた活動について、分かち合いました。司教から2025年の聖年についての説明やロゴの紹介、2025年の司教年頭書簡「すべての人と希望の巡礼者となろう」の趣意説明がありました。宣教司牧評議会の資料は、京都教区HPから閲覧可能です。教区の動きを知るためにもどなたでもご覧ください。右記のQRコードからどうぞ。



YES 2024 報告 テーマ「集まれ青年！」

昨年11月23日(土)から24日(日)にかけて、唐崎メリノールハウスにてYES 2024を開催しました。コロナ禍や環境の変化で教会から少し遠のいていた青年たちが再び集える場を目指し、昨年を上回る5名が参加しました。

自己紹介やレクリエーションを通じて場が和み、ソ神父様にサンタクロスやクリスマスツリーにまつわる講話をしていただきました。その後、1人ずつミニクリスマスツリーを制作し、個性豊かな作品が並ぶ楽しい時間を過ごしました。

さらに司教様をお迎えし、ミサと講話を通じて「なぜ集まるのか」を改めて考える機会をいただきました。集まることの大切さを深く感じる、学びと喜びに満ちた2日間となりました。



最後に、今回の開催を支えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

伏見教会 寺田英樹

YES (イエス) は京都教区の青年の集いです。YESには以下のような意味が込められています。「Y」…Youth、「E」…Enjoy, Encounter, Exchange など、「S」…Space

つながりネットワーク 深めようコミュニケーション 京都カトリック青年センター

青年センターは、教区を越える青少年活動について京都教区の窓口となるとともに、京都教区内の各教会、青年の各諸活動をバックアップするための機関です。



← 青年センターのHPも見てね!



青年センターあんでな

お知らせ

司 教

大塚司教の予定

最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。



教区・大阪高松教会管区

正平協と部落差別人権活動センター
紙芝居 (DVD) 上映と対談講演会

「満州分村移民と部落差別」

熊本「来民開拓団」の悲劇

日 時：2月11日(㊤) 14:00～17:00

会 場：河原町カトリック会館地下大ホール

京都市中京区河原町通三条上る下丸屋町423

紙芝居：「275人の遺書配達人」(DVD約30分)

対談講演会講師：松浦悟郎さん(名古屋教区司教)

エイミ・ツジモトさん(国際ジャーナリスト)

主 催：京都教区正義と平和協議会

大阪高松教会管区部落差別人権活動センター

部落差別人権活動センター

対話集会「ウトロで終わらないウトロの話」

日 時：2月24日(㊤) 14:00

場 所：サクラファミリア(大阪梅田教会) 2Fサテライト

発題者：金秀煥さん(ウトロ平和祈念館副館長)

参加費：500円 集会交流会：3,000円

定 員：25名(要申込)

申 込・問合せ：bukatu@kyoto.catholic.jp

Tel/075-223-3340 Fax/075-223-3371

広報委員会

教区時報4月号の原稿締切日は2月24日(㊤)です。

下記までご連絡ください。

koho@kyoto.catholic.jp

修 道 会

聖ドミニコ女子修道会

みことばを聴こう

日 時：2月11日(㊤) 13:00～16:30

テーマ：「イエスの怒りと笑い」

講 師：米田彰男師(ドミニコ会士)

場 所：聖ドミニコ女子修道会 京都修道院

京都市上京区河原町今出川下る梶井町448

対 象：どなたでもどうぞ

問合せ：メール endo@dominic.or.jp

Fax 075-222-2573

諸 団 体

京都キリシタン研究会

日本26聖人殉教者記念ミサ(申込不要)

日 時：2月1日(㊤) 14～15時

場 所：望洋庵(西陣教会内)

ミサに先行して①②を開催(事前申込不要)

①DVD鑑賞 日本二十六聖人殉教の映画(1931年80分)
12:30～ 望洋庵にて

②ミニ巡礼フランスカン・チャペル(四条岩上通り下ル)

12:15集合出発 日本二十六聖人市内引き

回しルート巡礼(雨天中止)13:45西陣教会

問合せ：090-2381-4630 古澤吉次

京都カトリック混声合唱団

聖歌練習

日 時：2月9日(㊤) 14:00

第4土曜日は活動休止中

場 所：河原町教会聖堂 団員募集中

問合せ：075-951-4283 則武 隆

コーロ・チェルステ(女声コーラス)

練 習：2月13日(㊤) 10:00 27日(㊤) 10:00

場 所：河原町教会2階楽廊

新会員募集中

問合せ：075-561-5971 駒井和子

聴覚障がい者の会・京都グループ

手話ミサと絵画

日 時：2月18日(㊤) 受付10時半 手話ミサ11時

昼食後総会・交流会 14時終了

場 所：河原町教会地下小聖堂およびヴィリオンホール

弁当、飲み物は各自持参

問合せ：Tel&Fax 075-723-1135 傳 裕子

心のともしび

ラジオ番組案内(全国34局で放送)

2月の主テーマ「真(まこと)の強さ」

KBS京都 (㊤)～(金) 朝5:55

(土) 朝5:15

ラジオ関西 (㊤)～(金) 朝5:00

(土) 朝6:05

毎日放送 (㊤)～(金) 朝5:45

(土) 朝4:55



皆さまのまわりに点訳版「京都教区時報」が必要な方がおられないでしょうか。点訳版「京都教区時報」をご希望の方がおられましたら、カ障連大阪フレンドリー点字部・笠松幸彦さんまでお申込みください。無料でお送りします。

Tel・Fax/072-722-0271